

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-275	15-306	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
<p>East asian variant of aldehyde dehydrogenase 2 is associated with coronary spastic angina: possible roles of reactive aldehydes and implications of alcohol flushing syndrome. アルデヒド脱水素酵素 2 の東アジア人の異型は冠攣縮性狭心症を伴う：反応性アルデヒドの役割の可能性とアルコール潮紅症候群の臨床的意味</p>		
執筆者		
Mizuno Y, Harada E, Morita S, Kinoshita K, Hayashida M, Shono M, Morikawa Y, Murohara T, Nakayama M, Yoshimura M, Yasue H.		
掲載誌		
Circulation. 2015 May 12;131(19):1665-73. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.114.013120. Epub 2015 Mar 10.		
キーワード		PMID:
アルデヒド脱水素酵素; 冠攣縮; 冠攣縮性狭心症		25759460
要 旨		
<p>背景： 冠攣縮性狭心症 (CSA) は、東アジア人 (日本人を含む) の間の一般的な病気である。異型アルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH2*2) 遺伝子型の不十分な酵素活性と関連して、東アジア人の間でアルコール潮紅症候群の罹患率は高い。我々は、CSA が日本語で ALDH2*2 遺伝子型と関係しているかどうか調べた。</p> <p>方法と結果： 研究被験者は、アセチルコリンの冠内注入が CSA の疑いで血管造影によって行われた 202 例の患者から構成されていた (119 人の男性と 83 人の女性; 平均年齢、66.2±11.4 歳)。彼らは、CSA (112 例の患者) と対照群 (90 例の患者) に分けられた。ALDH2 遺伝子タイピングは、乾燥全血に TaqMan ポリメラーゼ連鎖反応システムを直接適用し測定した。臨床的および検査上のデータは、従来の方法を使用して調べた。 男性、ALDH2*2 遺伝子型キャリア、アルコ潮紅症候群、喫煙の頻度は CSA 群で対照群でより低く (P<0.001、P<0.001、P<0.001、P<0.001)、血漿尿酸レベルはより高かった (P=0.007)。血漿高密度リポ蛋白質コレステロール (HDLC) ・レベルは CSA 群で対照群でより低かった (P<0.001)。多変量ロジスティック回帰分析で、ALDH2*2 遺伝子型と喫煙が CSA (P<0.001 と P=0.024) と有意に関係していることが判明した。</p> <p>結論： 東アジア人の異型 ALDH2*2 遺伝子型と、そのための ALDH2 活性の低下は、日本人での CSA と関係していた。 これらのデータは、CSA のためにアルデヒドをターゲットとする治療の更なる研究を支持する。</p>		